

講義番号	-
授業科目	実践コミュニケーション論
担当教員(所属)	長光 正明 (社会文化科学研究科系)
学期	2019年度 Q:3,4 学期
曜日・時限	水曜5, 水曜6
単位数	2
教室	文・法・経済学部講義棟 13 番講義室
ナンバリングコード	LCEAOECED I ***N
印刷用ページ	<a href="https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2019&amp;shozoku=0411&amp;jikanwari=0612&amp;sylocale=ja_JP">https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2019&amp;shozoku=0411&amp;jikanwari=0612&amp;sylocale=ja_JP</a>
科目区分	専門科目
対象学生	経済学部   年次以上 工学部   年次以上
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	否
連絡先	
オフィスアワー	授業直後
学部・研究科独自の項目	
使用言語	日本語
授業の概要	<p>産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習(PBL)の手法により、グローバル社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」のうち、特に「チームで働く力」を鍛える授業である。講義とミニ演習を通じて、チーム活動を円滑に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などを習得する。経済学部と工学部の学生が混成チームを組み、企業が抱える現実の課題、特にグローバル視点(国際取引の視点)からの課題に対し、チーム毎の解決策を考える。成果発表会では、両学部の教員など関係者を前にプレゼンし、いかに協働して独創的な発想を生み出せたかを競う。</p> <p>PBLテーマは下記(但し、変更になる可能性がある)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の原価調査</li> <li>・外国人技能労働者の受け入れをどう進めるか</li> <li>・商品の輸出をどう行うか(ヒアリング先協力企業のPBL) など</li> </ul> <p>授業の詳細は、次の講義サイトを参照のこと。注:2018年度までと講師が一部入れ替わっている。</p> <p><a href="http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/">http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/</a></p> <p>受講定員は経済学部と工学部あわせて20名(経済10、工学10が基本)</p>
学習目的	「社会人基礎力」のうち「チームで働く力」を身につける
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の思考と自分の思考の違いの生じ方と、それによって生じる価値を理解する。</li> <li>・個人の意思決定とチームの意思決定の違いを認識し、チームによる思考や意思決定のポイントを理解する。</li> <li>・チーム活動を通じて価値を導き出すことの難しさや大切さを理解し、チーム活動を円滑に進めるための技法を習得する。</li> <li>・特にグローバル社会に対応したPBLを通じ、チームで成果物を作っていくためのスキル(国際取引のスキルを含む)を修得する。</li> <li>・会社訪問、ヒアリング、成果物の発表、コメント拝聴などを通じて、社会人のコミュニケーションのベースラインをもとに、自身のコミュニケーションを振り返り、改善点を見出す。</li> </ul>

<p>授業計画</p>	<p>【Aクラス】</p> <p>第1回 10月02日(水):オリエンテーション、チーム活動とは、グローバルとは、企業とは、PBLとは</p> <p>第2回 10月09日(水):企業の国際化に関する講義、ビジネスコミュニケーションのルールと技術</p> <p>第3回 10月23日(水):第1課題の説明</p> <p>第4回 10月30日(水):課題解決の話し合い(1-1)</p> <p>第5回 11月06日(水):プレゼンテーション(第1課題の解決策の発表)</p> <p>第6回 11月13日(水):振り返り</p> <p>第7回 11月20日(水):第2課題の説明</p> <p>第8回 11月27日(水):課題解決の話し合い(2-1)</p> <p>第9回 12月04日(水):プレゼンテーション(第2課題の解決策の発表)</p> <p>第10回 12月11日(水):振り返り</p> <p>第11回 12月18日(水):第3課題の説明</p> <p>第12回 01月08日(水):協力企業へのヒアリング</p> <p>第13回 01月15日(水):課題解決の話し合い(3-1)</p> <p>第14回 01月22日(水):プレゼンテーション(第3課題の解決策の発表)</p> <p>第15回 01月29日(水):成果発表会@文法経講義棟 12番講義室</p> <p>第16回 02月05日(水):振り返り</p>
<p>授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)</p>	<p>授業時間外の学習は必須である。</p> <p>授業の振り返りとPBLテーマに関するレポート及びグループワーク。</p> <p>成績評価に反映する。</p>
<p>(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合</p>	<p>10% : 90%</p>
<p>(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)</p>	<p>多い</p>
<p>(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)</p>	<p>多い</p>
<p>(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)</p>	<p>やや多い</p>
<p>(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)</p>	<p>多い</p>
<p>(3)授業形態-実践型科目タイプ</p>	<p>Bタイプ(社会連携の実践活動を一部取り入れている)</p>
<p>(4)授業形態-履修者への連絡事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム作業の体験を通じたコミュニケーションを体験的に学ぶ</li> <li>企業の実際の課題に対して、社員になったつもりで真剣に課題解決を考える。ややハードルが高いと感じるかもしれないが、学生なりの知識と感性を生かして、真剣に議論し合うことが必要。</li> <li>・出席重視</li> <li>チーム作業の繰り返しになる。個人で予習したり、準備する作業もあるが、それは次のチーム作業のためのものである。チームとしての成果の向上に責任をもつ態度が求められる。</li> </ul>

使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVD など)	やや多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodle など)	やや多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	やや多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	ノートパソコンを持っている学生は、授業に持参すること。教室においてもインターネットで情報検索したり、パワーポイントの資料を作成したりするため。
教科書	
参考書等	特に指定しない。各自関連の図書、文献で学習すること。
成績評価	毎回の出席は必須である。レポート、チームへの貢献度、チーム活動内容等により総合的に評価する。
担当教員の研究活動との関連	担当教員は民間調査期間の実務経験をもとに、人材育成、実践型教育の研究を行っている。
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての日程に出席できること</li> <li>・自分の行動に責任を持ち、チームに貢献すること</li> </ul>
教職課程該当科目	該当せず
JABEE との関連	関連せず
主な SDGs 関連項目 1	8 働きがいも経済成長も
主な SDGs 関連項目 2	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
主な SDGs 関連項目 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	有
備考/履修上の注意/実務経験の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践型科目(B)</li> <li>・指定の期日(7月16日)までに、下記メールアドレス宛にエントリーシートデータを提出のこと。</li> </ul> <p>経済学部教務担当:ggg7363@adm.okayama-u.ac.jp</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者多数の場合は、成績やエントリーシートにより選考を行う。</li> </ul>